

南の風

- ・巻頭言
- ・1年生を迎える会
- ・令和7年度職員紹介
- ・5月の予定 等

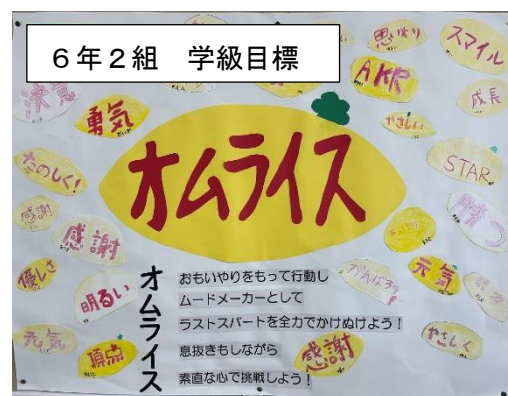


「自分で考え たくましく生きる子ども」

校長 若狭 陽一

新学期がスタートしました。子どもたちは、学校で様々な目標を立てました。おそらく、家庭でも立てたことでしょう。立てた目標があまりにも抽象的であったり、数多く存在したりすると、結局は「絵にかいた餅」となりがちです。そこで、担任は、目標の意識化を図るために、様々な働き掛けをします。例えば、学級目標の設定です。学級全員で出し合った言葉を吟味させたり、文字のデザインや飾りを工夫して目立たせたり・・・今年も個性あふれる学級目標が各教室に掲示されています。

さて、学校における最上位の目標は「教育目標」です。そして、五泉南小学校の教育目標は、「自分で考え たくましく生きる子ども」です。教育目標は子どもがすぐに口に出せるシンプルな言葉です。さらに、「変化の激しい未来を生き抜く」という現在の国の目指す方向と合致し、何を目指せばよいのかを具体的にイメージできる言葉です。ですから、私は、数十年前に設定された本教育目標がとても気に入っています。



私は、本教育目標の意味を次のように解釈しています。

- ①自分で考える・・・豊富な考える根拠をもち、それに基づいて判断できる。
- ②たくましく生きる・・・まわりと折り合いを付け、時として自分を変えられる。

<①の姿について>

自分で考えるためには、根拠とする経験や知識が必要になります。私たちは子どもを信じて任せると同時に、その子どもが考える根拠をもっているのかどうかも見極めなければなりません。ないのならば、経験や知識を惜しみなく与えるべきでしょう。大切なのは、子ども自身が「自分で考えることができた。判断することができた。」という成就感を味わったかどうかだと思います。

<②の姿について>

これからの時代は、多様な考えをもつまわりと折り合いを付けながら「こころの充足」を得ること（ウェルビーイング）が求められています。このことは、単に自分だけがよい状態にあるだけでなく、自分を取りまくまわりもよい状態にあることを意味しています。正に、学校はこのウェルビーイングの考え方を身に付ける場です。学級・学年集団、異学年集団で学ぶ究極の意義はここにあると思います。私たちは、自分のため、集団のためによりよくなろうとする子どもたちを大いに称賛していきたいものです。

全校児童が本教育目標を口ずさめるよう、意識できるように、今年度は、昨年度以上に、全校集会等の機会をとらえて、教育目標に触れさせていきます。

